

題 定置網探検隊—空から網の中をのぞいてみよう—

水産技術センター 相模湾試験場 主任研究員 田村怜子

本県の相模湾沿岸には、定置網という魚を獲るための大きな網が、海の中にいくつも入っています（図1、2）。その大きさは大きいもので幅400m、深さ60m。ちょっとしたマンションが海の中に建っているようなものだと思うと、海は広いな大きいな～と実感します。この定置網では、季節ごとに泳いでくる魚が獲れるため、四季ごとにいろいろな種類の魚を楽しめるようにしている漁業の一つです。

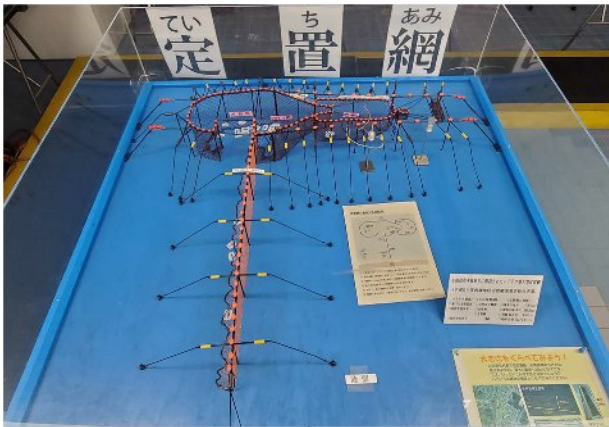


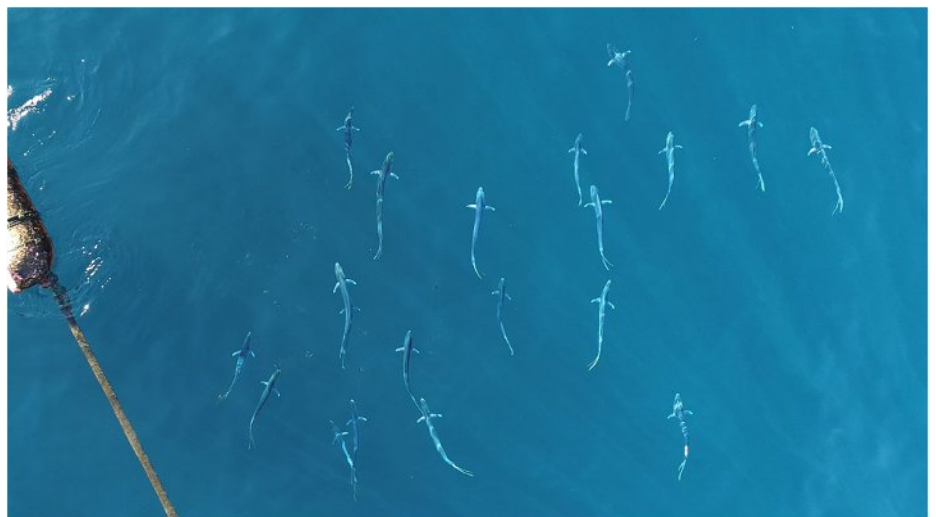
図1 定置網の模型



図2 江の島沖にある定置網

さて、そんな大きな網の中をどんな魚が泳いでいるのか、気になりませんか？ 当场では定置網漁業者の方々からの依頼により、ほうじょうで各定置網の設置状況をドローンにより上空から確認する調査をしているのですが、その際に網の中にいる魚が見えることがあります。今回はその一部の映像を紹介したいと思います。

ある定置網ではシイラの群れが泳いでいるのが見えました（図3）。シイラは水面直下とも言えるくらい浅い水深を泳いでいることが多く、特に胸鰭をピンと広げて泳いでいるので、いればすぐに見つけられる魚です。写真では伝わりにくいのですが、胸鰭が蛍光の水色のような、とてもきれいな色をしているので、見ても飽きませ



ん。たまにイルカのように船について泳ぐこともある愛嬌のある魚です。この魚はハワイではマヒマヒと呼ばれるメジャーな魚で、県内では平塚が名物として扱っています。また、別の定置網ではメジナの群れとヤガラのような魚が見えました（図4）。メジナは昼間に網の近くを泳いでいることが多い魚なので、よく見かけます。ヤガラは頭の形がとても特徴的な魚で、刺身もおいしいですが、何より出汁がよく出てとてもおいしい魚です。



図4 メジナの群れ（上）とヤガラ（下）

そんなある日、遠くから網を撮影していた時に何やら海面にバシャバシャとしぶきが！普段の撮影では見られなかったことなので急接近して撮影を試みますが、魚のようなものがちらちらとしか見えず（図5、6）。ドローンが近づくと警戒して海の中へ消えていく動き、そしてあの高速の泳ぎとしぶきのあげ方はマグロなどの大型回遊魚じゃないのか…？と気になっていたところ、翌日のその定置網には大量のマグロが水揚げされたとの情報が入りました（図7）。まとめてマグロが網の中に入っている様子が撮影できたのは初めてだったので、とてもラッキーでした。



図5 網の中で見えたしぶき



図6 高速で泳ぐマグロ？な魚



図7 やっぱりマグロでした

今回は定置網を空から見ただけでも網の中を泳ぐ魚の一部を垣間見ることができるんだよ、という紹介でした。もし次回このコラムを書く機会があれば、網の中を泳ぐ魚を水中から見た姿を紹介できるかもしれませんので、お楽しみに。